

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

担当エリアは住民主体の地域福祉活動が活発で、地域の福祉拠点である常設サロン「いこいの家」があります。また、住民間の支えあいの仕組み「ふれあいヘルプ」が実施されている等、泉区内でも先駆的な取組を実施している地域です。それ以外にも、8の各自治会町内会単位で高齢者サロンがあり、体操教室も13団体ある等、地域活動も盛んです。様々なお祭りやイベントも活発に実施されており、連合や地区社協・民児協が連携しながら積極的に福祉に取り組んでいる地域でもあります。しかし、コロナの影響もありサロン活動の停止・シニアクラブの解散、商店の閉店も見られております。今年度は地域活動再開に向けたサポートや、改めて地域ケアプラザの機能周知、コロナ禍に対応した介護予防・認知症予防(啓発)に向けた取組、新たなボランティア発掘や社会福祉法人による地域貢献事業、スマホやZOOMといったICTの啓発等、コロナ禍でも持続可能な交流を生み出す事業に力を入れたいと思います。

今年度の重点的な取組

新規
継続

— 具体的な取組内容 —

- 担当エリアの地域資源や相談状況等を可視化してまいります。(当ケアプラザオリジナルの「見える化シート」・「和泉中央連合自治会 見える化マップ」の更新等)可視化した情報を基に地域アセスメントを行い、必要な支援等を6職種で検討し実行します。
- スマートフォンやZOOM等、ICTの活用・啓発を目的とした事業を継続し、新たな交流の場・手段の拡大を目指します。また介護予防・認知症予防(啓発)を目的とした事業開催においても、ZOOM等の活用を検討し会場に来なくても参加できる形での開催を目指します。
- シニア男性の閉じこもり問題に対し、男性限定の講座やグループのサポートを行い地域デビューを促進する取組を進めてきました。今年度は、グループの更なる周知やコロナ禍に対応した形でのプログラムを検討・実行し、シニア男性の健康寿命促進を目指します。
- エリア内の教育機関(小中学校、保育園、幼稚園等)にむけて福祉教育の実施、ボランティア活動の紹介、コロナ禍に対応した交流を促進してまいります。また「いこいの家」「みんなの絵本のおうち」等、地域の交流拠点の利用者増加のサポートをしてまいります。
- 担当エリアにおいて、ヤングケアラーがいるか否か等の実態把握を進め、必要な取組等を検討します。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

- ・地域の会議やイベントに参加した際、地域活動の状況把握及び情報提供を行いました。
- ・シニア男性の健康寿命延伸を目指した講座を開催しました。ハマボノminiも活用し、グループ参加への呼びかけを行いました。
- ・シニアの方のスマホ使用に伴う、悩み事に対応する相談の場を定期的で開催しました。若い世代のボランティアの方も参加していただき、多世代交流の場ともなりました。
- ・小学校の福祉教育に協力し、地域福祉保健計画の周知や障害への理解、地域包括ケアの構築及び啓発に向けた取組をサポートしました。
- ・健康増進・介護予防・多世代間交流を目的とした事業「いずみ中央チャレンジウィーク」を開催しました。開催期間(1週間)内で延べ200名の方が参加しました。
- ・地域資源や相談状況を「見える化」し、地域アセスメントを軸にした地域支援について行政とも連携し取組を進めました。
- ・エリア内のヤングケアラーの実態把握に向けて学校等に情報収集や関係構築に努めました。

区からのコメント

- ・生活支援体制整備事業では、泉区アクションプランの着実な推進のため、区内生活支援コーディネーターがー丸となって取組を進めていただきました。今年度は、泉サポートプロジェクトの取組が注目される中、けん引役として力を発揮してくれました。次年度も、持続可能な活動を増やし、高齢者が住んで良かったと思える地域づくりを進めていきたいと思います。
- ・シニア男性の引きこもりに着目し、男性限定の講座やグループのサポートを行い、地域デビューを促す取組を行っていただいています。今後もシニア男性の健康寿命延伸に向けた取組をお願いします。
- ・スマホ相談所のボランティア発掘に向けて、高校のボランティア部と意見交換等を行い、ハマトレマスターの活動ではケアプラザの事業で講師役として活動していただきハマトレ周知につなげるなど、地域ボランティアの発掘に向けて積極的に取り組んでいます。今後も、ボランティア発掘に向けた取組を期待しています。
- ・小学校での総合学習サポートでは、高齢者の疑似体験や地域の人との交流を通して、地域福祉保健計画や地域包括ケアシステムについて理解してもらえるよう取り組んでいます。今後も学校と連携し、福祉教育のサポートをお願いします。